

第2回「京都御苑ずきの御近所さん」

京都市歴史資料館館長

井上満郎 様



京都市歴史資料館館長を務めていらっしゃる井上満郎先生。子供の頃の思い出で、京都御苑にまつわるものはありますか？

御前の御池ってわかりますか？北野天満宮、天神さんの前に真っ直ぐどんと南北に通っているのが御前通というんですけれども、それと御池通の交差する辺り、そこで生まれ育ちました。

御所まで距離はありますが、小中学生の頃には結構遊びに来ました。

子どもの頃の遊びは、二条城がまずそうでしたし、二条城も今はもちろん堀には入れませんが、子どもの頃は下まで確か行けたはずです。かろうじて記憶があるんですけれども…。

二条駅そのものも遊び場所の一つとして、今は想像がつかないかと思いますが、二条駅は貨物駅でもすごく広いヤードがあったんです。あそこは多く材木を運んできて、降ろして積んだりするスペースがたくさんありました。今はそれが再開発でいっぱいいろんなものが建っていますけれども、遊び場所の一つでした。

そのすぐ東に行くと神泉苑ですね。ですから、神泉苑・二条城・御所。天神さんはもちろんですが、その辺が私の子どもの頃の遊び場所、御所も非常に近い存在でした。

「御苑」なんかで言われるとものすごく違和感が今でもありましてね。京都人は「御苑」なんて言い方をしませんので。やっぱり「御所」ですね。

子どもの頃は、セミ採りやボール投げ、その種の一般的な当時の子どもの遊びですね。ちょっと距離が離れていますから、来る時は自転車だった記憶があります。

私らにとっては快適な遊び場所だった。かつて天皇が住んでいて貴族が住んでいて、そういうイメージは、小中学生の頃はほとんど意識しないですから。私らに非常に身近な場所でした。昭和20年代から30年代って、まだあんまり公園が整備されていなかったから、京都御所はそういう意味で貴重な空間だった記憶があります。今みたいに綺麗に整備されていたかな？その当時は、ただひたすら遊ぶのに一生懸命ですから、どんな木が生えていて、どんな整備がされていたかという印象はまったく記憶にないです。

築地塀に通っている警戒線（京都御所の築地塀に触れると警報音が鳴る宮内庁のシステム）なんかはもちろん当時はなかったですからね。私は落書きしませんでしたけど、落書きだらけだったことは記憶しています。築地塀の横の小川（溝）ですが、あそこに魚がいっぱい棲んでいました。今でも棲んでいます。

かね？昔は魚がたくさん泳いでいた記憶があります。もちろん御所水道がきている時代です。

鴨川もそうだった記憶がありますが、堀川も、あんなものおおよそ川じゃなかったです。下水がいっぱい流れ込みますし、堀川は友禅流しが行われ、汚れた水でした。鴨川もそれに似たような感じでしたから、今みたいな自然の中の川なんてイメージはなかったです。御所には御所水道の水が引き込まれ、すごく綺麗な魚が泳いでいるなど珍しかった記憶があります。

日本史の専門家として、京都御苑の歴史に関して面白いと思われることはありますか？

面白いなということはいくつもあります。よく言われるのは、京都御所っていうと、あそこは元々、天皇の皇居が平安時代以来ずっとあったと思ってらっしゃる方が結構いらっしゃるんです。しかも、あれだけ広いスペース全部が、天皇スペースだったと思い込んでいる人もまた多いですね。京都御所、今の御苑の中に、かつて貴族の邸宅がぎっしり建て込んでいたなんてイメージは、今の京都の人はほとんどないですね。

その典型が蛤御門です。蛤御門というと、今あそこの門を見られて、向こうとこっちとで戦いが行われたと思われるんですけど、戦いが行われた当時の御門の場所はずっと内側でしたからね。そういうことも意外と知られていません。ですから御苑としてはそういうところをもうちょっとアピールして下さったら面白いなと思います。

私は比較的金閣寺の近いところで生まれ育ったんですけど、金閣寺の中へ入ったのは大学に入ってからです。金閣寺は行く場所じゃない訳です。そこにはあるけれど、京都の人間ですからね。ですから、京都御所についてもそんな感じですか。かつて天皇さんが住んでおられて、貴族が住んでいてというそういうイメージより先に遊び場ですからね。

今、京都検定の委員をやっていますけど、京都検定でいい成績をとらるのは京都以外の方が比率的には多いです。受験者は圧倒的に京都の方が多いんですけど。ちなみに京都検定の1級を9回とっておられる方がいらっしゃるんですけど、その方は名古屋の人です。京都の人と違う訳ですよ。京都以外の方が京都に興味を持っていろいろ調べはる訳ですよ。灯台下暗しってよう言いますが。だから、調べたり行ったりする対象じゃないんですよ。生活、暮らしの中の一つなんです。観光地じゃ決してない訳ですよ、金閣寺にしる銀閣寺にしる。そういう歴史的な意味での関心を持たないですね。

京都御苑で好きな場所、好きな時期などありますか？

九條邸跡にある拾翠亭で梅雨の雨がシトシト降っている時です。拾翠亭の中から池を眺めれば絶景です。写真を撮ってもいい。九條邸の庭園を拾翠亭から見ると、池の左側に巖島神社があって。あの景色、私はすごく好きです。

昔、拾翠亭が公開されていなかった頃に結構頼んで入れて頂いたことがあります。京都大学で15,6年教えていたんですけども、学生をぞろぞろと引き連れて吉田キャンパスから、1講時の90分の範囲で行って帰れます。連れて行って強い印象を持った学生が多かったですし、その当時の学生に会いますと今

でも昔話に出てきます。京都大学もどこの大学もそうですけども、京都出身の人間は、1割程度で、あと9割が京都以外の人間です。御所がどういう風景か知らない人間が大多数ですから、連れて行って多少の説明を加えますとすごく喜ばれた記憶があります。

雨の降り方はザーじゃなくて、またショボショボでもなくて、梅雨的な嫌な感じの雨ですね。その方が私は好きです。京都の中にあんな風景があることを、ほとんどの方がたぶんご存じないと思います。京都のお寺にはもちろん庭園がたくさんありますけども、あんな雰囲気を含めた庭園はお寺にはまずないです。拾翠亭・九條池をもっと宣伝したらいいと思います。

九條池以外の歴史的なスポットで言えば、閑院宮邸がなお風情を残していますし、また宗像神社が残っています。御所の北側にある桂宮邸跡だとか、そういうのはもちろん思い浮かびます。

京都御苑の今後について、御意見などありましたらどうぞ。

私自身はイギリスやフランスの例を持ち出す必要はないのかもしれませんが、御所を王朝文化というのか、そういうものを現在に残したところとして、もっと宣伝・広報をされればいいと思います。たくさんの方の市民、国民、世界の人々に接してもらおう。つまり京都御所を世界の人々の文化全体、暮らしの中に位置づける。金閣寺や銀閣寺、清水寺みたいにとりかかるといふ訳にはいかないかもしれませんが。それに近づけても私はよいと思うんです。最初に言いましたように京都御所といえ、私にとってはまさに遊び場所であるように、私の暮らし、私の生活の一部やった訳です。そういう形で京都御所を位置づけていくのが私には一番いいと思います。

2016年7月8日 インタビュー

聞き手：田村省二、山本昌世

○井上満郎さま

1940年、京都市生まれ。京都大学大学院修了。1982年に京都産業大学教授。2004年から京都市歴史資料館長、2012年から京都市埋蔵文化財研究所長を務める。著書に『研究史平安京』『平安時代軍事制度の研究』（吉川弘文館）、『京都・躍動する古代』（ミネルヴァ書房）、『渡来人』（リポート）、『平安京再現』（河出書房新社）、『京都・よみがえる古代』（ミネルヴァ書房）、『平安京の風景』（文英堂）、『古代の日本と渡来人』（明石書店）、『桓武天皇』（ミネルヴァ書房）、『秦河勝』（吉川弘文館）などがある。